

T O F U

豆腐の輸出

**輸出数量・金額は、全国・近畿圏ともに増加！！
2022年は近畿圏が輸出シェア1位！！**

古くから日本人に馴染みある食品「豆腐」。冬は鍋料理、夏は冷奴など季節を問わず美味しくいただくことができます。そんな日本人にとって身近な食品である「豆腐」ですが、今日では海外でも「TOFU」と呼ばれ広く食されていることをご存知でしょうか？

「豆腐」は消化吸収がよく、体の主要な栄養素であるタンパク質と脂質に富んでおり、さらに健康や美容に嬉しい機能性成分を多く含むことから、健康食品として注目されています。

古くから東アジアと東南アジアで食されていましたが、近年の日本食ブームや健康志向の高まりを背景に、欧米諸国でも受け入れられ、今や「TOFU」は**世界共通語**として広く認知されるようになりました。

今回はそんな世界的な健康食品「TOFU」の輸出について特集します。



※本稿の「豆腐」は輸出統計品目番号2106.90-200に分類されるものを集計しています。この分類において「豆腐」とは、大豆を主原料とする液体に凝固剤を添加し、凝固させたものをいいます。ただし、次のようなものは含みません。（国内分類例規）

- ・大豆を主原料としないもの（胡麻豆腐、玉子豆腐等）
- ・凝固剤を添加しないもの（湯葉等）
- ・乾燥させたもの（高野豆腐等）
- ・油で揚げたもの（あぶらあげ、がんもどき等）
- ・焼いたもの（焼き豆腐等）



全国・近畿圏 輸出推移



豆腐の輸出は増加傾向 近畿圏の伸びが顕著！

貿易統計においては、2017年の輸出統計品目表の改訂によって、「豆腐」の項目が新設されました。2016年までは「その他の調製食料品」として扱われていたため豆腐としての輸出動向は不明ですが、2017年からの豆腐の輸出について6年分のデータをまとめると、全国・近畿圏ともに輸出数量・金額が増加していることが分かります。

2022年の輸出数量は全国が2,582トン、近畿圏が1,844トン、輸出金額は全国が7億4百万円、近畿圏が4億33百万円となり、いずれも2017年以降過去最高となりました。

特に近畿圏の伸びが顕著で、2017年と2022年を比較すると、数量で55.1倍、金額で27.1倍となっており、全国の数量2.9倍、金額2.2倍よりも大幅に増加しています。

また2023年をみると、1-3月の輸出数量は全国で-10.7%と減少しているものの2022年に次いで2番目の水準となり、近畿圏では+3.0%と増加しています。輸出金額についても全国+3.5%、近畿圏+16.7%と増加し、2022年に続き好調に輸出されています。

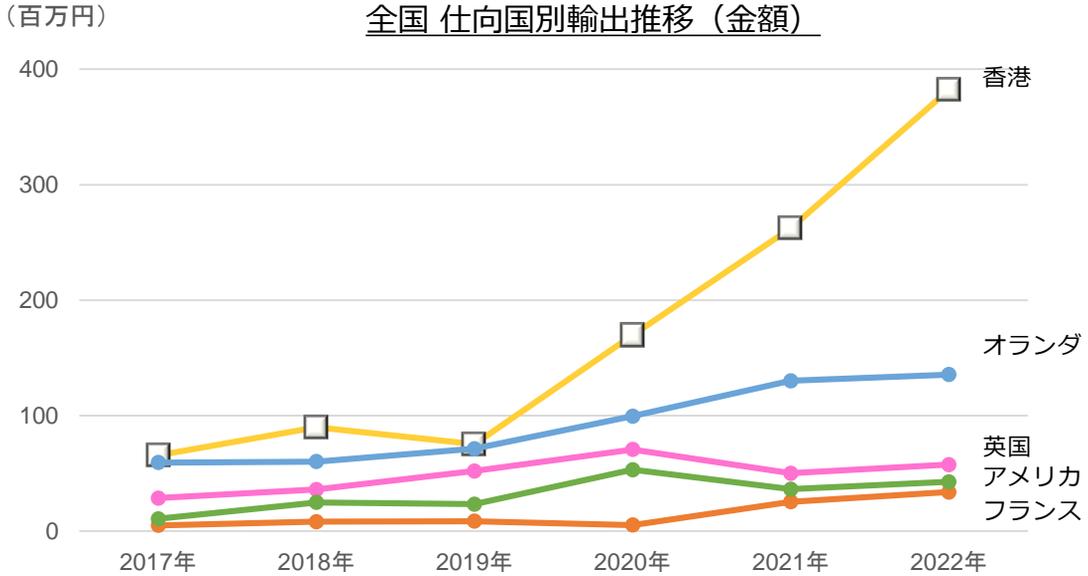
豆腐の輸出が増えている要因

豆腐の輸出が増えている理由について、海外で豆腐が認知され始めたこと、日本食ブーム、植物性たんぱく源の注目度上昇といったことが挙げられます。また業界によると、国内における無菌充填技術の革新により保存料を使わず長期保存可能な豆腐が製造されるようになったことも輸出を後押しする契機になったと考えられるとのことです。

Umm...



仕向国別動向



(全国) 香港向けが増加

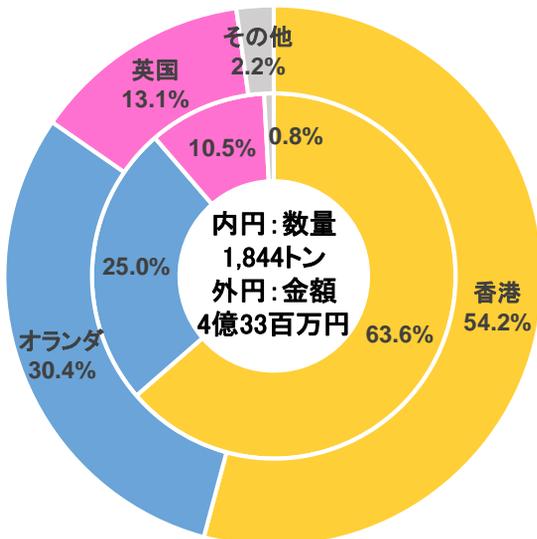
2022年の全国における豆腐の仕向国は、輸出金額の多い順に香港（3億82百万円）、オランダ（1億35百万円）、英国（57百万円）、アメリカ（43百万円）、フランス（34百万円）です。この上位5か国で全体の9割以上を占めています。

輸出金額の推移をみると香港向けが増加しており、2022年の輸出金額は2017年の66百万円と比較して約5.8倍になっています。

香港では日本食文化が定着している、海上輸送において利便性があるといった特徴に、近年新型コロナウイルスによる内食需要も1つの要因となって輸出が増加したと考えられます。現地では主に調理用として、鍋料理に使用されることが多いようです。

2022年 近畿圏 仕向国別構成比

(近畿圏) 香港・オランダ・英国向けが中心



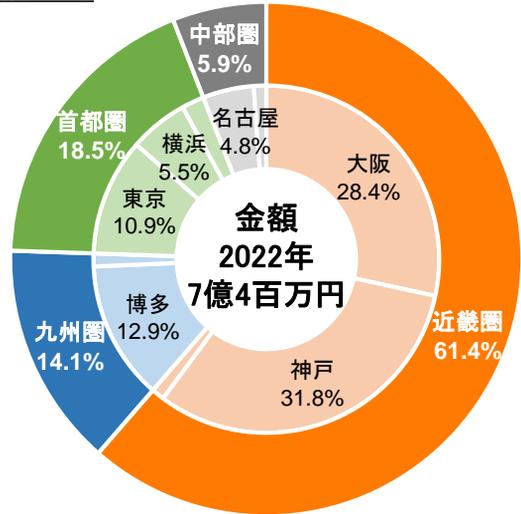
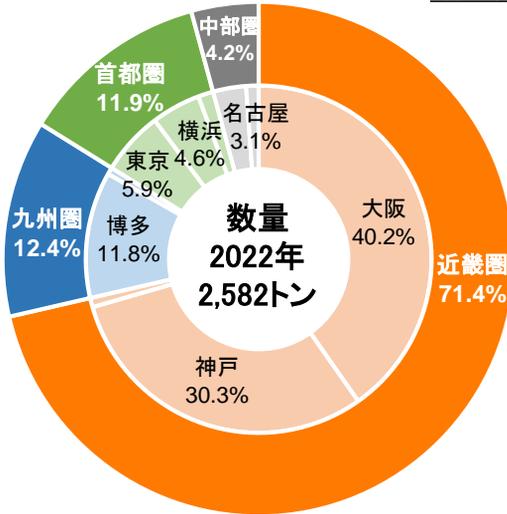
2022年における近畿圏の国別構成比をみると、香港、オランダ、英国の順に多く輸出されており、数量・金額ともにこの3か国で全体の9割以上を占めています。

香港については前述した通りですが、オランダ・英国へも豆腐は多く輸出されています。ヨーロッパ諸国では菜食主義といった食の思想やSDGsへの取り組みが定着しており、植物性たんぱく源である豆腐製品への関心度は非常に高く人気を得ています。

肉の代替として食べられることも多く、硬い豆腐の方が食べごたえがあり好まれるようです。他にも、卵や乳製品の代替としても使用されます。

経済圏別・港別動向

経済圏・港別構成比



近畿圏からの輸出が全国シェア1位！

2022年における経済圏別の実績をみると、近畿圏が数量で71.4%、金額で61.4%を占め、全国でトップとなっています。また港別の実績をみると、数量は大阪港が1位、神戸港が2位、金額は神戸港が1位、大阪港が2位となっています。

主に大阪港から香港へ、神戸港からヨーロッパ諸国へ輸出されています。

近畿圏の港が多く利用される背景として、生産拠点から近いことや輸出先への航路があることなどが挙げられます。



まとめ



業界によると、日本の豆腐は開封してすぐ食することが可能なため、海外で品質や安全・安心への信頼性が高く、さらに風味があり美味しいと人気だそうです。

また、これまで賞味（消費）期限が短い豆腐は輸出のハードルが高く、ごく最近まで困難を極めていました。しかし、近年の技術革新によって長期保存可能な豆腐が開発されたこと、2018年の法改正により無菌充填豆腐の常温流通が可能となったことを機に豆腐の概念が変化しました。そして輸出への関心や期待感が高まり、積極的に輸出されるようになったとのことです。

国内における技術革新や法改正、国外における健康志向の高まりや日本食ブーム等様々な要因が重なり近年豆腐の輸出は拡大していきました。

今後の展望について業界によると、健康志向やSDGsへの関心は世界的に一層高まるものと考えられ、この傾向は豆腐文化のある中国や東南アジアだけでなく、「TOFU」が既に認知されているアメリカにおいても同様であり、更なる需要増が見込まれるとのことです。





データ集



輸出数量・金額推移

年	全国				近畿圏					
	数量 (KG)	前年比	金額 (千円)	前年比	数量 (KG)	前年比	全国比	金額 (千円)	前年比	全国比
2017	885,907	-	317,429	-	33,473	-	3.8%	15,981	-	5.0%
2018	1,139,805	128.7%	441,114	139.0%	48,682	145.4%	4.3%	23,324	145.9%	5.3%
2019	1,312,066	115.1%	501,700	113.7%	49,835	102.4%	3.8%	24,571	105.3%	4.9%
2020	1,409,506	107.4%	488,471	97.4%	121,181	243.2%	8.6%	38,832	158.0%	7.9%
2021	1,967,881	139.6%	580,323	118.8%	589,330	486.3%	29.9%	130,981	337.3%	22.6%
2022	2,582,035	131.2%	704,447	121.4%	1,843,783	312.9%	71.4%	432,528	330.2%	61.4%
2022 1-3月	580,391	152.2%	156,962	126.5%	369,482	992.8%	63.7%	84,604	691.7%	53.9%
2023 1-3月	518,067	89.3%	162,442	103.5%	380,427	103.0%	73.4%	98,728	116.7%	60.8%

※2022年1-3月及び2023年1-3月の前年比は、前年1-3月の数量又は金額との比較となります。

全国 主要仕向国別輸出額推移

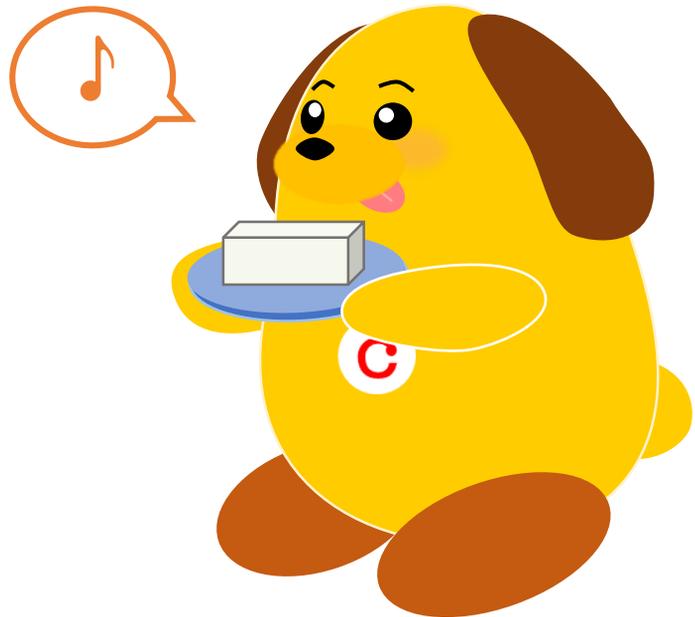
年	香港 (千円)			オランダ (千円)			英国 (千円)			アメリカ (千円)			フランス (千円)		
	前年比	構成比		前年比	構成比		前年比	構成比		前年比	構成比		前年比	構成比	
2017	-	20.6%	65,549	-	18.7%	59,273	-	9.0%	28,535	-	3.3%	10,564	-	1.5%	4,801
2018	136.9%	20.3%	89,731	101.4%	13.6%	60,102	125.9%	8.1%	35,912	234.4%	5.6%	24,766	167.8%	1.8%	8,057
2019	83.9%	15.0%	75,255	118.6%	14.2%	71,274	144.6%	10.3%	51,917	93.7%	4.6%	23,198	105.7%	1.7%	8,513
2020	225.5%	34.7%	169,726	139.5%	20.4%	99,442	136.1%	14.5%	70,647	228.5%	10.9%	53,007	59.6%	1.0%	5,078
2021	154.5%	45.2%	262,214	130.8%	22.4%	130,088	70.8%	8.6%	50,049	68.4%	6.2%	36,258	498.1%	4.4%	25,295
2022	145.8%	54.3%	382,313	104.1%	19.2%	135,451	114.8%	8.2%	57,451	117.3%	6.0%	42,531	133.2%	4.8%	33,702

2022年 近畿圏 仕向国別輸出実績

国名	数量 (KG)			金額 (千円)		
		構成比	全国比		構成比	全国比
香港	1,173,227	63.6%	69.8%	234,385	54.2%	61.3%
オランダ	461,273	25.0%	97.2%	131,634	30.4%	97.2%
英国	193,657	10.5%	99.3%	56,857	13.1%	99.0%
その他	15,626	0.8%	6.8%	9,652	2.2%	7.5%
世界	1,843,783	100.0%	71.4%	432,528	100.0%	61.4%

2022年 経済圏・港別構成比

経済圏・港	数量(KG)	構成比	金額(千円)	構成比
近畿圏	1,843,783	71.4%	432,528	61.4%
大阪港	1,038,884	40.2%	200,029	28.4%
神戸港	782,653	30.3%	224,065	31.8%
その他	22,246	0.9%	8,434	1.2%
九州圏	320,268	12.4%	99,541	14.1%
博多港	303,680	11.8%	91,083	12.9%
その他	16,588	0.6%	8,458	1.2%
首都圏	308,370	11.9%	130,593	18.5%
東京港	153,021	5.9%	77,084	10.9%
横浜港	118,662	4.6%	38,694	5.5%
その他	36,687	1.4%	14,815	2.1%
中部圏	109,614	4.2%	41,785	5.9%
名古屋港	79,542	3.1%	33,546	4.8%
その他	30,072	1.2%	8,239	1.2%
全国	2,582,035	100.0%	704,447	100.0%



- 2023年（令和5年）1-3月分は確報値、2022年（令和4年）は確々報値、2021年（令和3年）以前は確定値となります。
- 本特集における各経済圏は以下の都道府県を含むものになります。
 近畿圏：大阪、京都、兵庫、滋賀、奈良、和歌山の2府4県
 九州圏：福岡、山口、佐賀、長崎、熊本、大分、宮崎、鹿児島、沖縄の9県
 首都圏：東京、千葉、神奈川、茨城、栃木、群馬、埼玉、山梨の1都7県
 中部圏：愛知、岐阜、三重、長野、静岡の5県
- 港別の貿易額は、その港を管轄する税関官署の貿易額を集計したものとなります。
- 価格はFOB価格で集計し、船舶（飛行機）出港の日をもって計上しています。
- 表示単位未満は四捨五入、「0」は単位に満たないもの、「-」は実績なしのものを指します。
- ※本資料を他に転載するときは、大阪税関の資料に基づく旨を注記してください。
- ※本資料に関するお問い合わせは大阪税関調査部調査統計課までお願いします。
 （電話06-6966-5385）